

「2024年度タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学経営管理大学院修士課程2年 堀 泰子

① 学習成果

今回のチュラーロンコーン大学スプリングプログラムへの参加を通じて、タイ語語学学習やタイと日本との国際理解に対する意欲が大きく向上しました。留学前は、まったく初めてタイ語を勉強するので、初心者として言語習得に対する不安がありましたが、実際に現地でクラスだけでなく日常生活においても学ぶことで、語学学習の楽しさと重要性を実感しました。特に、日常生活の中でタイ語を使う機会が多く、座学だけでは得られない実践的な知識を身につけることができました。また、タイの文化や社会についての講義を受けることで、単なる言語習得だけでなく、歴史的背景や社会構造への理解も深まりました。

この経験を通じて、今後さらに海外での学習機会を増やしたいという意欲が高まりました。特に、アジア圏の観光動向や文化交流に興味があるため、次回はより実践的な研究や調査を行いたいと考えています。今回の短期留学が、次のステップへの第一歩となりました。

② 海外での経験

タイでの滞在は、言語だけでなく異文化理解の面でも非常に貴重な経験となりました。現地の学生との交流を通じて、日本とタイの文化的な違いや共通点を知ることができ、異文化コミュニケーションの重要性を再認識しました。特に、日本語を学ぶタイの学生との会話を通じて、双方の言語学習に対する姿勢や学習環境の違いを実感しました。

また、タイの歴史や社会に関するフィールドワークでは、実際に寺院や市場を訪れ、地元の人々と交流する機会がありました。このような体験は、単なる観光では得られない深い理解につながり、現地の人々の視点から社会を見る大切さを学びました。

③ プログラム内容

今回のプログラムは、語学学習に加えて料理文化体験やアユタヤへの小旅行、ディスカッションの機会が豊富に用意されており、非常に充実した内容でした。具体的には、タイ語の基礎クラスでは、日常会話や観光業で役立つ表現を学び、実際に現地で活用する機会が多くありました。

また、文化講義では、タイの歴史、宗教、社会制度について学び、日本と比較することで理解を深めることができました。特に印象的だったのは、タイ語母語話者との発表討論の機会です。日本語を交えながらディスカッションを行い、双方の視点から観光業の課題や可能性について考えることができました。これにより、異文化間の視点の違いを知るだけでなく、自分の意見を論理的に伝える力も鍛えられました。

④ 進路への影響

今回の留学を通じて、今後のキャリアや研究の方向性がより明確になりました。私は通訳ガイドとして、実務経験を積みながら観光経営を学んでいます。タイ市場の日本へのインバウンド旅行の重要性を改めて実感し、今後の研究テーマとしても深く掘り下げていきたいと考えています。また、現地でのフィールドワークを通じて、観光業における異文化理解の重要性を再認識し、国際交流を促進する役割を担いたいという思いが強まりました。

今後は、さらにタイ語の学習を継続し、より実践的なレベルまで高めるとともに、長期的な研究計画を立て、アジア地域の観光交流に貢献できるようなプロジェクトに取り組んでいきたいと考えています。また、日本とタイの学生交流を促進するための活動にも関与し、異文化間の橋渡し役としての役割を果たしていきたいです。

まとめ

今回のチュラーロンコーン大学での短期留学は、語学学習だけでなく、異文化理解や国際交流の重要性を学ぶ貴重な機会となりました。留学前と比べて、言語習得に対する意欲が高まり、今後の学習や研究の方向性も明確になりました。この経験を活かし、さらなる学びと挑戦を続けていきたいと思います。